



上田女子 短期大学 通信

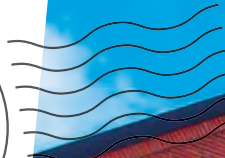
— vol.078 —
2015.9.5

→ Ueda Women's
Junior College

CONTENTS

- Special edition ▶ 新しい始まりに…………… 2-3
- Campus Life ▶ 幼児教育科 Topics…………… 4
- Campus Life ▶ 総合文化学科 Topics…………… 5
- Campus Life ▶ ゼミナール紹介・学長と語ろう!… 6
- Campus Life ▶ サマーセミナー・サークル紹介… 7
- Information ▶ 進路サポート室情報…………… 8

表紙撮影：幼児教育学科2年 小林咲輝
(野沢南高校出身)





多様性の中で、自分を失わずに 自他ともに活かす



学長 小池 明

大学生活を特徴付けるものは何?と訊かれたらどう答えますか。自由、責任、もう大人(社会人)、勉強が大変、等等。私なら先づ「多様性」を挙げたい。皆さんの周りを見て下さい。夫々の出身高校、出身地は高校時代よりずっと広い範囲に亘っている。皆さんのキャリアも多彩で、高校を卒業してその併進学した人、一度仕事に就いた上で本学に来た人、他の大学等を経験して来た人、留学生など。卒業後の進路にしても、社会人となって選ぶ道筋は様々に分かれる。まさに多彩、皆さん多士済々です。併し、それだけではない。より本質的な点、大学で学ぶこと、サークル活動などでの経験は、それ自体、極めて多様性に富んでいるからです。例えば、勉強といっても受け身で習うだけでなく、自ら積極的に問いや仮説を立て、その解を探る姿勢が求められる。而もその解は一つでなく複数の解があるかもしれぬし、抑も存在せぬ可能性もある。又、所謂正解なるものも人によって異なることは大いに有り得る。サークルなどに於ける人間関係も同様です。リーダーシップや人に仕える、人を使うなどのことも正解や正しい取り組み方など、人により、時に応じて変わるものだとすることを常に意識して物事に対峙する必要がある。その中で最適解を見つける営みというのは極めて刺激的、チャレンジングではありませんか。周囲の社会を、閉じられたものから開かれたものへと自らの力で変え、そして外に打って出る。多様性を愉しみながら、自らの成長、発展の場と為し、同時に他人も活かすという視点、心がけを持つことで学生生活は一層充実したものになる。当然、卒業後の長い人生への備え、トレーニングの場となるのです。



また夏が

幼児教育学科学科長 町田育弥

幼児教育学科の学生は2年の間に、幼稚園・保育園・他福祉施設での実習を2週間ずつ5回、延べ10週間にわたって行うことになる。現場の厳しさを肌で感じ、自身の言動や一挙手一投足に対する生のリアクションが返ってくるここでの学びは大きい。かなりの試練であるが、自身を鼓舞する飛躍のチャンスでもある。充実感に顔を輝かせて報告に来る者もいれば、打ちのめされ、意気消沈して帰ってくる者もいて、励ます我々にとっても悲喜こもごもである。実習中に我々が実習先を訪問してその様子を見る「巡回」もある。

初実習のあの1年生は元気でやっているだろうか? 前回私の顔を見るなり涙ぐんだあの2年生は、今回は大丈夫だろうか? 様々な思いを抱きながら、汗をふきふき走りまわり、あちこちの園の門をくぐる。そんな夏の巡回の季節がやってきた。

おおい! みんな頑張れよお。



未来予測の難しさ

総合文化学科学科長 大橋敦夫

20世紀から21世紀にかけての「世紀末」を生きてまいりましたので、さまざまな未来予測の言説を聞くことになりました。新しいものが出ると、それによってすべてのことが変わってしまうような物言いも、記憶に残っています。例えば、ワープロが登場したとき、これによって、ペーパーレスの時代が到来すると声高に説く方もありました。が、結果はみなさんご存じのとおり。オフィスや書齋は、かえって書類の洪水に押し流されるようなありさまです。

教育の分野では、非常に慎重な発言をされた方があり、今でも忘れません。曰く、21世紀、社会人として身に着けておくべき技能は、キーボードの操作と自動車の運転免許の二つ。これは、当たりでした。慎重にして、余計なことを挙げなかった点が功を奏したとも言えます。

これからの時代は、人口減少が確実に進み、様々な分野で、右肩上がりの成長・発展が想像しにくい状況です。バブル経済の体験は、あまり役立ちそうにありません。それでも、近似の過去に学びながら進んでいくしかないと考えています。

平成27年度 新入生代表あいさつ



幼児教育学科1年
新井高校出身
清水琴乃さん

私は幼児教育学科に入学いたしました
が、最近、子どもを取りまく問題や多くの
事件を新聞やテレビで目にします。人が大
人になる上で基盤となる時期が幼児期で
す。子どもたちが成長して悲しい事件を起
こさないように、命の大切さを教えること
や、自分を認めてくれる存在がいること、
感情のコントロールや正しい表現の仕方な
どが学べる環境で育つことが大切です。そ
うすることで、世界中で戦争などが減り、
人々が命に優しさを持てるようになると思
います。また、そのような社会が実現すれば、
今とても問題になっている子どもに関わる

事件も減ると思います。ですから、保育者
にはその環境をつくる責任感と、しっかりと
子どもが学びながら育っていきける質の高い
保育が求められます。

こうしたことに対応するために、乳幼児
の発育・発達や、子どもの心理などをしっ
かり学び、実習を通して一人ひとりの子ど
もと向き合うことができる保育者になりたい
です。そして2年間という短い時間を無駄
にしないよう、多くのことを吸収し、仲間と
ともに楽しみながら、私たち入学生それぞ
れが描く理想の保育者を目指していきま
す。(あいさつより抜粋)

平成27年度 特待生紹介

推薦特待生



幼児教育学科2年
高田北城高校出身
霜鳥亜莉沙さん

特待生に選ばれたときは驚きと
ともに責任を感じました。すぐに家
族に報告すると、私以上に喜ん
でくれてうれしかったです。小さい
ころから続けてきたピアノを学べる
音楽コースを専攻しています。幼
稚園実習では、伴奏しながら子ど
もたちといっしょに歌うことができ
て、心から楽しいと感じました。子
どものことを第一に考えて行動で
きる保育士を目指して、これまで
以上に頑張りたいです。



総合文化学科2年
塩尻志学館高校出身
清水柚果さん

掲示板に推薦特待生として名
前が掲示されたときは「何だろ
う?」と、一瞬戸惑いました。先
生に「おめでとう」と声をかけら
れて選ばれたことを実感しました。家
族の負担を少しでも減らすことが
できてよかったです。図書館司書
が第一目標ですが、人の支えに
なるような仕事につきたいと考
えています。時間を上手にやりくり
して、今しか学べないことを勉強
したいです。

資格特待生

保育士を目指し、上田女子短大への進
学を考えた中で、資格特待生制度が設け
られることを知り、志願しました。高校は英
語科で学んでいたもので、それを生かしT
OEIC試験500点以上という条件をクリア
することができました。今も英語の勉強は
続けていますが、さらにESSサークルでも

活動しています。様々な話題を取り上げ、
英語でディスカッションするESSの活動は
刺激になります。来年の2月にはグアム研
修に参加しようと考えています。現地の保
育園児と交流するプログラムなどで、い
ろんな経験を積みそうです。



幼児教育学科1年
松本県ヶ丘高校出身
丸山美咲季さん

同窓生優遇措置

大好きな図書館に係る仕事をし
たいと考えていたところ、同級生が、私の
希望する資格が取れるのではとすすめて
くれました。母が幼児教育学科の卒業生
だったことから入学金を免除していただ
ける同窓生優遇措置を受けられ感謝して
います。図書館の仕事を体験できる図書
館実習を楽しみにしています。

母・齋藤香織さん(幼児教育学科卒)
オープンキャンパスで図書館を見学させ
てもらい、娘の希望とおりの勉強ができ
ばいいなと感じました。すれ違う学生さん
たちも、みんな礼儀正しくて、安心して背
中を押してあげることができました。



総合文化学科1年
丸子修学館高校出身
齋藤茜さん

幼児教育学科卒
母：齋藤香織さん

幼児教育学科Topics

教育実習 理解することの大切さを実感

1年生の時の実習の反省から、今回は「視野を広く持ち、全体に目が向けられるように」と意識してのぞみました。すると、子ども同士の関係が見えてきて、声掛けなど工夫できました。担任を務める責任実習では、園児一人ひとりのことを理

解していることの大切さを痛感しました。卒業後は地元で子どもといっしょに笑顔になれる保育士になるのが目標です。これまで重ねてきた基本的な学びを、さらに深めていきたいと思います。



幼児教育学科2年 松本美須ヶ丘高校出身
清水佳奈さん

附属幼稚園でのプレ実習



この春入学の1年生が附属幼稚園でプレ実習を行いました。これは、8月に予定されている初めての教育実習を前に、子どもたちとのふれあいや幼稚園生活に親しむことを目的に実施される、本学ならではのものです。学生たちは戸惑いながらも、この日のために練習してきた自己紹介や手遊びなどを発表し、本実習への気持ちを高めていたようでした。



幼児教育学科1年
上田東高校出身
山崎 綾さん

自発性を促す工夫に感心

年長児のクラスで、午睡後から、帰りの会までの自由遊びの時間をいっしょに過ごしました。おやつや牛乳の片付けでも、子どもたちがビニールと紙に自然に分別できるようにしてあるなど、自発性を促す支援が大事だと感じました。この体験を糧に、本番の実習をしっかりやりたいです。



幼児教育学科1年
高田商業高校出身
米持 光さん

子どもたちに助けられながら

子どもたちと触れ合えるのを楽しみにしていたのですが、当日は自己紹介のときの手遊びを間違えてしまうくらいに緊張しました。でも、「先生これやろう!」と手をしてくれる子どもがいて、徐々に気持ちが高まりました。短い時間でしたが、子どもの動きに対応する先生たちの配慮などにも気づかされ、とても勉強になりました。

どんぐり広場

どんぐり広場が今年の前期も開催されました。この広場は、「保育と子育て支援」の受講生がスタッフとなり運営します。今年度は26名の学生が広場開催にむけて準備をして参りました。手作り玩具の用意や、広場のメインとなる遊びの企画も行いました。計4回開催された広場には、多くの親子や地域の方々に参加していただき、学生企画による製作活動やふれあい遊びも大盛況でした。



学生企画

ビリビリバタバタ! 夏のカレンダーをつくろう

幼児教育学科2年 仲川若菜さん(新潟・糸魚川高校出身) 能登茜里さん(新潟・糸魚川白嶺高校出身) 水科佑衣さん(新潟・関根学園出身)	三代澤麻衣さん(豊科高校出身) 村田陽菜さん(新潟・柏崎常盤高校出身) 山口未希さん(新潟・高田北城高校出身) 吉永千明さん(小諸商業高校出身)
---	---

私たちのグループは、カレンダー作りを企画しました。子どもたちは、ポンポンとタンポを押したり、ちぎった折り紙をべたべたはったりといった作業に夢中で取り組んでくれました。保護者の方々から普段の子どもの様子も伺って、有意義な時間を過ごすことができました。



ホームカミングデー

幼児教育学科では、3月に卒業したOGを迎える「ホームカミングデー」を開催しています。今年は6月14日(日)に開催したところ、貴重なお休みを

利用して約40名の卒業生が集まりました。社会人になって感じたいろいろな悩み、喜びや感動を同級生や短大の教員と分かち合うことで、翌日からの励みとしてそれぞれの仕事に戻る姿がみられました。



総合文化学科Topics

中学校での教育実習を終えて



総合文化学科2年
長野清泉女学院高校出身
西澤歩実さん

自分の将来像を描けた

長野市内にある母校に教育実習に行ってきました。受け持ちは2年生のクラス。最初の週はギクシャクした感じでしたが、翌週になると生徒から声をかけてくれたり、発問に対して積極的に手を挙げてくれたり。生徒に助けをもらいながら無事に実習を終えられました。実習の中で、具体的な将来像や自分に足りない部分が見えてきたのと同時に、国語の先生になりたいという思いも強くなりました。学生でいられるのももう少し。大学での時間を大切に友だちとたくさん思い出をつくりたいです。



総合文化学科2年
飯田風越高校出身
市瀬里保さん

現場の楽しさを体感

実習に行く前は、生徒とうまくかわれるのか、授業はスムーズに進められるのかなど不安でいっぱいでした。実習先の母校でもある中学校は学年2クラスずつ、全校生徒約150人ほどの小規模校です。私は2年生のクラスに入りましたが、全学年の授業を体験させてもらえました。指導案の作成は大変でしたが、座学では味わえない、現場の楽しさを実感しました。実習の最後、生徒がくれた手紙に「先生の授業のおかげで国語が好きになった」と書かれていてうれしかったです。

講義「絵本を使ったコミュニケーション」(総合文化学科1年必修)

普段あまり話したことがない学生同士が幼い頃読んでもらった絵本について、また、その絵本にまつわるエピソードを話し、互いに読み聞かせをする中で、自然な笑顔と語りが生まれていました。人と人との繋がりが問われる現代社会ですが、二週に渡る講義を通じて、学生達には初めての出

会とは思えないほど互いを理解し合う姿がみられました。これを機に体得したコミュニケーション力に更なる磨きをかけ、今後の学びや学生生活での活躍に大いに期待します。

(※「スタディスキル」 輪講の1コマです。)

総合文化学科1年 松商学園高校出身
輪湖紅音さん

普段話す機会のない人に読み聞かせするのは恥ずかしかったのですが、個々の表現の仕方によって、相手への伝わり方が違ってくることを体感しました。改めて「伝えるための技術」を意識する学びになりました。



上田市立図書館 書架整備ボランティア活動 (2015年6月7日)

「図書館サービス特論」(担当:山浦美幸先生)の学外活動の一環として、上田市立図書館の書架の整備業務のお手伝いをしました。司書課程の2年生14名が参加しました。

まず書架上の図書を移動し、汚れを拭き取ります。さらに上段の書架に耐震用のテープを貼っていきます。このテープは地震の揺れが来ても、摩擦によって図書を落ちにくくするものです。地道な仕事ですがこれによって、快適で安全な書架空間を作ることができました。学生にとっては貴重な体験となりました。



総合文化学科2年 小諸商業高校出身
櫻井春風さん

作業に参加してみて、利用者の立場では気付かなかった、図書館が行っている細かなサービスの一端を知ることができてよかったです。本に触れている作業は楽しくて、図書館で働きたいという思いを強くしました。

ゼミナール紹介

幼児教育学科 市東賢二ゼミ

3大学合同初夏合宿

～よく学び、大いに語ろう!～

今年も市東ゼミの2年生が、長野大学の稲木ゼミ、遠藤ゼミ、心理学基礎実験Iや大正大学谷田ゼミの学生たちとの合同合宿に参加してきました。この合宿ではそれぞれのゼミや実験の中から研究発表を行います。市東ゼミは例年保育技術の成果を発表するという形式で、レクリエーションを行い、他大学のゼミ生たちからは手遊びを教えて欲しいなどのリクエストもいただきました。



幼児教育学科2年 新井高校出身 橋本美姫

5月30日、31日に本学（市東ゼミ）と大正大学（谷田ゼミ）、長野大学（稲木ゼミ、遠藤ゼミ、心理学基礎実験I）の4つのゼミの学生が集まり、三大学合同初夏合宿が鹿教湯温泉交流センターでありました。「よく学び、大いに語ろう」をテーマに、初日は長野大学、大正大学の学生による研究発表会と懇親会、翌日は本学による模擬保育が行われました。

模擬保育は「連結ゲーム」や「進化ゲーム」といった足を使う活動を主とし、自己紹介を兼ねた「サインゲーム」や、集中力や瞬発力を使う「だるまさん」など、各ゲームのねらいや意図、全体のバランスを考えて構成しました。他大学の学生の皆さんにも協力していただき、スムーズに活動を展開できました。投票の結果、最優秀発表賞をいただきました。

総合文化学科 木内公一郎ゼミ

10月に予定されている、シンポジウム「北陸新幹線延伸による信州観光ビジネスの可能性」（仮題）の研究活動の一環として、アンケート調査を計画しています。県内観光地の認知度を調査することが目的です。ゼミ生は調査用紙の基礎情報である県内主要な観光地を附属図書館の資料や、iPadを使って調べています。調査用紙が完成次第、本学学生を対象に調査を実施する予定です。



上田女子短期大学地域連携センター活動報告

あなたがまん中～小池学長と語ろう!

特待生編

今年度上田女子短大の特待生となった幼児教育学科の2年生2人と1年生5人、総合文化学科の2年生1人と1年生1人の合わせて9人が参加して、4月30日にキャンパス内で「特待生と学長との懇親会」が開かれました。学生たちは、学長はじめ教職員らと会食しながら、期待される特待生としての自覚を深めました。

会は、昼の特待生認証式の後、夕方からスタート。学生一人ひとりが自己紹介とともに特待生としての自覚や決意、抱負を発表すると、教職員からそれぞれ期待の言葉やエールが送られました。この中で、小池学長は「学業のみならず様々なことにチャレンジしてほしい」とし、「失敗をすることも学生時代には大きな学びになる」と話されました。

2年連続で特待生になった幼児教育学科2年・橋本美姫さん（新井高校出身）が、「2年連続の秘訣は特にないが、学内での勉強以外にボランティアに多く参加した」と1年間を振り返ったのに対し、「学内外の活動に積極的にかかわりたい」と抱負を話す1年生も。

また、今年度資格特待生となった幼児教育学科1年、青木千種さん（昭和音楽大学出身）は、小池学長に留学時の様子を質問。学長は自身の体験を踏まえ、「様々な学びの形がある」とお答えになりました。



寮生編

キャンパス内併設の「紫苑寮」で暮らす2年生27人と小池学長が7月8日、キャンパス内でバーベキューをしながら交流しました。和やかな雰囲気の中でおしゃべりを楽しみながら親睦を深めました。

●寮のよさってどんなところでしょう?

学長／多彩さだと思う。出身地だったり、年齢だったり、いろんな人がいるから。大学生生活の醍醐味だね。我慢することもあるだろうけど、徹底的に親しくなることもできる。いいことも悪いことも含めて寮での経験は将来人としての財産になると思う。

幼教 能登茜里さん（糸魚川白嶺高出身）／同じ学科・学年の人がいて、話も相談もできて不安が少ないのがいいです。学校生活だけだと、他の学科の人と関わることはあまりありませんが、寮では交流があって、仲良くできる友だちが増えました。

総文 武田美也華さん（中野立志館高出身）／学校の敷地内にあるので、通学に時間がかからずありがたかったです。あまり社交的な方ではないので、家族のように過ごせる友だちができてよかったです。

総文 吉澤那緒さん（松商学園高出身）／1年生の歓迎会やクリスマス会など、みんなで企画していっしょに楽しむイベントもあり、寂しくなることはありません。

幼教 和泉汐里さん（新井高出身）／私の場合、一人暮らしだったら生活がゆるんでしまっていたと思います。ほかの寮生がしっかり勉強しているのを見ると、自分もやらなければと気持ちを引き締めるよい刺激になり、充実した生活を送れているように感じます。

幼教 中村智香さん（高田北城高出身）／いつでも悩みを相談できる友だちができたのが一番の収穫です。集団生活は自分の人生の中で大きな糧になると思います。



サマーセミナー



小論文の書き方講座

「日本語のプロ」大橋敦夫教授による「小論文の書き方講座」には33人が参加しました。大橋教授は、最初に文章評価のポイントが表記と内容、構成の3点に置かれていることを説明し、小論文の組み立て方をわかりやすく解

サマーセミナーは、毎夏、本学受験生に向けて開催されている恒例の行事です。

その内容は——まず、受験準備が本格化する夏休みに合わせ、「小論文の書き方」についての講座が開かれます。一般入試はもとより、特に推薦入試と併願できる特待生入試を想定して、具体的なアドバイスが行われます。

さらに、各学科の特色ある教育内容についての理解を深めるために、「図書館司書体験」と「ピアノ授業体験とレッスン」の2講座が用意されています。図書館の貸し出しカウンターの中に入っている作業や、ピアノに触れながらの体験を通して、より具体的に学科での専門的な学びがイメージできることでしょう。

他大学では、あまり例のないユニークなセミナーに、ぜひ足を運んでみてください。

図書館司書体験

図書館司書が普段のような仕事をしているのか、その一端を実際に体験して知ってもらおうと開かれました。木内公一郎准教授が「資料と利用者を結びつける」図書館司書の仕事について説明した後、蔵書の整理方法などに触れ

ながら、2階から地階まで短大図書館を案内。後半は、特定のタイトルの本の検索を、利用者と司書それぞれの立場で体験しました。受講生の皆さんは1冊に対して登録されている情報の幅が広いことを実感した様子でした。

ピアノ授業体験とレッスン

幼児教育学科を志望する高校生を対象に、習熟度別に3講座が開かれました。最も多くの参加があったのは、ピアノ未経験者と初心者対象の「楽譜の読み方入門」と、簡単な子どもの歌が弾けるように「グループ指導」をしてく

れるコース。町田育弥教授に譜読みの基礎をわかりやすく指導してもらった後は、それぞれがピアノの前にグループレッスンを体験しました。そのほか、ピアノと声楽の個人レッスンも行われました。



サークル紹介

家庭菜園サークル



幼児教育学科2年
糸魚川白嶺高校出身 高橋理瑠さん

2年生5人と1年生10人の計15人で活動しています。校内にある小さな畑とプランターで、キュウリ、ナス、枝豆、ミニトマトなどを育てています。そのほか、春はいちご狩り、夏は梅ジャムづくり、秋は松茸ごはんを食べる会をみんなで楽しみながらやっています。

文化サークル



総合文化学科2年
豊野高等専修学校出身 小山静香さん

日本の伝統文化の体験をテーマに、2年生と1年生各7人ずつの14人が在籍しているサークルです。発足して2年目ですが、今は「ラーメンの食べ歩き」に取り組んでいます。「学海祭」では、メンバーが訪ねた上田市のお店を紹介するラーメンマップを作って発表する予定です。

文芸・イラストサークル



幼児教育学科2年
小諸高校出身 豊岡瑞穂さん

2年生10人、1年生6人が、週1回、金曜日の放課後集まって、それぞれが思い思いに創作活動に励んでいます。手がけているのは漫画やイラスト、小説などさまざま。描きためた作品は秋の学海祭で展示するほか、小冊子にまとめて販売します。時には持ち寄りのお菓子パーティーも開いています。

進路サポート室情報

進路サポート室では、学生の皆さんの希望する進路の実現のために、各種セミナーを実施しています。就職活動を進める上で必要となるさまざまな知識や情報の提供を目的として、自己分析講座、マナー講座、履歴書・エントリーシート指導、面接講座、企業説明会、現場の園長先生を招いての講演会、卒業生の体験談、筆記試験対策講座等を開講しています。

また、個別相談や履歴書の添削および模擬面接は常時受け付けており、個人個人に合わせた支援を行っています。

公務員志望者向けには、1年次の9月から2年次の7月までの約1年間をかけて対策講座を開講し、一貫した受験勉強のサポートを行うことで合格率アップを目指しています。

卒業生 だより

幼児教育学科卒業
上田女子短大附属幼稚園勤務
佐野詩織さん

先生と呼ばれる責任感を感じています



4月から年長クラスの副担任になりました。学生時代の実習とは全く違い、子どもたちはもとより保護者からも頼られる「先生」という職業の厳しさと大変さを実感しながら過ごしています。子どもの命に対しても大きな責任を感じています。

今はクラスを引っ張っている担任の

先生に寄り添いながら、全力でサポートしていきたいです。子どもたちが幼稚園時代を振り返った時に、真っ先に思い浮かべてもらえる先生になれるよう、日々頑張っていきます。

新車の営業担当になりました。職場ではベテラン社員の皆さんに助けていただきながら頑張っています。短大で学んだ様々なことが大きな力になっているなど感じる日が日々あります。とりわけ、お客様に対しての手紙や添え状などは、授業で何回か書く経験を積

んでいたで、スムーズに作成することができました。あいさつや、約束を守ることなど、当たり前のことですが、きちんとこなして信頼される社会人になりたいです。

信頼される
社会人に

総合文化学科卒業
長野トヨタ自動車株式会社勤務
中村麻紀さん



入学から卒業までしっかりサポート

幼児教育学科

進路セミナー

「現場が求める人材像」
を受講して

幼児教育学科2年 伊那弥生ヶ丘高校出身
早川ひかりさん



進路セミナーで、現役の保育士さんにお話を伺い、保育士になりたいという思いを強くしました。地元の公立保育園への就職を目指していますので、今は公務員試験対策に取り組んでいます。「公務員試験対策講座」では、練習問題はもちろん、試験にまつわる様々な情報なども聞けて心強く感じました。小さいころ通っていた保育園の先生のような笑顔を絶やさない保育士になることが目標です。

総合文化学科

合同企業研究セミナー
に参加して

総合文化学科2年 小諸商業高校出身
東城美帆さん



私は地域の人を支える仕事をしたいと考えていたので、進路セミナーを積極的に活用し、まずはどのような企業、業種があるのかについて学びを深めました。そして、その後の合同企業説明会で今回内定をいただいた金融機関と出会うことができました。進路サポート室の先生には最初は全くわからなかった履歴書の書き方を教えてもらったり、様々な面でサポートしていただき感謝しています。

編集後記

今年の夏も異常でした。次から次へとよくもまあ異常な天候を思いつものだと呆れていたら、お盆を過ぎてようやく上田らしい涼しさも取戻しました。いよいよ夏休みも後半へ。いよいよ本格化する実習も就職活動も、熱い心と冷静な頭で！ (市東)



学校法人 北野学園

上田女子短期大学

幼児教育学科 / 総合文化学科



〒386-1214 長野県上田市下之郷乙620 TEL0268-38-2352 FAX0268-38-7315 E-mail adoffice@uedawjc.ac.jp
入試事務室 0120-375901 <http://www.uedawjc.ac.jp>